

# 2022（令和4）年度事業報告

社会福祉法人 シャローム福祉会  
指定就労継続支援B型事業所 シャローム  
共同生活援助事業所 グループホーム・シャローム

## 重点課題

- ① グループホームと短期入所の稼働率の向上
- ② 委員会活動の活性化
- ③ 2つの事業所の連携強化と事務の効率化
- ④ 業務継続計画（BCP）策定の着手
- ⑤ 地域との連携
- ⑥ 情報発信と新しい利用者の確保

## 法人の活動

### ○2つの事業所の連携強化と事務の効率化

- ・ 2つの事業所間での連携のためにコミュニケーションアプリがうまく機能するようになりました。日々の利用者支援に必要な情報や意見の交換、日常的な事務連絡等はスムーズになっています。
- ・ 利用者支援にかかる記録用紙や個別支援計画の様式については、試行錯誤のすえ、現行の様式で落ち着きました。研修報告書の様式は、短い時間で書きやすいように変更しましたが、適宜修正・追加を続けています。
- ・ 業務の効率化、グループホームにおける利用者のQOLの向上と職員の負担の軽減を図ることを目的に、介護・福祉関連の展示会を見に行きました。導入に直接結びつくものではありませんでしたが、身体介護に関する知識やアイデアを得たり、最新のICT機器やソフトウェアを見て、シャロームの規模と業務内容に必要なもののイメージを持つことができました。それを踏まえ、これまで、セキュリティの不安からインターネットバンキングを避けてきましたが、効率を優先し、まずは給与の振り込みから、オンラインでできるようにしました。また、会計システムと連動できる給与計算システムの導入を進めています。本格稼働は2023年6月の予定です。

### ○地域との連携

6月の第52回評議員会で、地域における公益的な取り組みについて長田区社会福祉法人連絡協議会、通称「ほっとかへんネット長田」への参加が提案されました。これをきっかけに加盟への手続きを進め、2023年度から正式に加盟することになりました。

### ○業務継続計画（BCP）策定の着手

BCP策定委員会のメンバーがWeb上の動画で研修を受け、シャローム固有の課題を出しました。11月に作成したグループホームの消防計画とも連動させて、BCPの策定を進めています。

### ○委員会活動の活性化

就労継続支援B型事業所（以下、就Bとします）とグループホームでは勤務時間帯が異なり職員全体として対面で話す機会がなかなか持てないため、コミュニケーションツールの活用を課題としてあげていました。しかし、後で述べる就Bの職員体制の変更以降、委員会の再編成が進まず、下半期では虐待防止委員会とBCP策定委員会の他はあまり動けませんでした。

#### 1. 理事会の開催

	通算	日付	議案
1	第69回	5月30日	令和3(2021)年度事業報告・計算書類の承認等。
2	第70回	11月6日	書面決議：シャローム（就労継続支援B型）の管理者の任命。
3	第71回	11月26日	令和4(2022)年度上半期事業報告・中間決算、第1次補正予算の承認、給与規程の改訂等。
4	第72回	3月7日	令和4(2022)年度第2次補正予算、令和5(2023)年度事業計画・当初予算の承認等。

#### 2. 評議員会の開催

	通算	日付	議案
1	第52回	6月23日	令和3(2021)年度事業報告・計算書類の承認。
2	第53回	3月30日	令和4(2022)年度補正予算、令和5(2023)年度事業計画・当初予算の承認。

#### 3. 監事監査の実施

5月26日に2021年度の事業について監事による監査が行われました。

## 就労継続支援B型事業所・シャロームの活動

### 1. 概要

#### ○職員体制の変更

- ・ 常勤職員1名が、新型コロナウイルス感染症の罹患後に死亡退職したことにより、11月から三河理事長が就Bの管理者になりました。突然の事態に対して、人員配置基準を満たすための緊急措置であり、早急に人員の補充が必要ですが、年度内に新たな採用はできていません。
- ・ 利用者にとって常に身近にいた職員の突然の不在を、利用者一人一人が受け入れられるよう配慮することが、下半期の重要な課題となりました。

#### ○情報発信と新しい利用者の確保

- ・ ホームページを、スマートフォンで見やすい形に更新しました。職員が行っているため、現在も少しずつ更新作業が続いています。
- ・ 紙のパンフレットを支援者用と当事者用の2種類を作り直しました。
- ・ 2020年度まで年2～3回発行してきた「シャロームだより」が、2021年度はグループホーム竣工をお知らせする特別号1回、2022年度も3月に1回発行するにとどまりました。紙とオンラインそれぞれの特徴にあわせて対象者と内容を考えた広報となるよう整備したいと考えています。
- ・ 山下理事が窓口になって、神戸市内の3つの支援学校の進路指導の先生方に見学に来ていただきました。実際に見学の生徒を受け入れるのは早くても2023年度、卒業生を利用者として受け入れるのは2年後です。学校側と直接対話することで、利用者確保のために必要なことも明確になり、シャロームの活動内容の再検討を始めました。

#### ○課題としての就労支援事業収入と作業工賃の向上

- ・ 令和4年度の現状は、自主製品製造販売事業と受託加工事業では、コロナ禍で収入が落ち込んだ令和2年度と同程度で、令和3年度と比較すると11～17%の減少となりました。コロナ禍以前に就労支援事業収入の20%近い売上があったバザー事業収入は令和4年度には0になりました。
- ・ 自主製品製造販売事業では、前年度の新商品であったマスクホルダーの売上が、2年目となった令和4年度は伸び悩みました。そこで、新たな販売先として、山下理事に兵庫県庁内の「ドリームカフェ」を紹介していただきました。6月から主にマスクホルダーの販売を始め、コロナ禍以前の売上は超えることができました。しかし、今後はマスクホルダーの需要の低下が見込まれるため、別の商品の開発が必要となっています。

- ・ 受託加工事業では、2か月ごとに印刷を請け負っていた事業所2か所のうちの1つが令和3年度末になくなり、印刷業の収入が減少していたところ、1月に別の事業所から同程度の依頼が始まりました。来年度につなげたいと考えています。
- ・ バザー事業（寄贈品の販売事業）では、コロナ禍でのイベントの減少、「ぎっかやさん」の閉店のため、収入がなくなりました。イベントそのものは、新しく始まった小規模なものもありますが、参加するための職員数が不足し、また、日程があわないため、見送っています。

#### ○ボランティアの受け入れ

長田区ボランティアセンターに依頼し、3月から月2回自主製品の作成を手伝ってもらってボランティアに来ていただいています。

#### ○新型コロナウイルス感染症対策

- ・ 7月、8月、9月に感染者が出ました。主に家庭内での感染で、シャローム内で広がることはありませんでした。
- ・ 12月に利用者と職員1名が感染、その後、別の職員1名が家庭内での濃厚接触者になりましたが、幸運なことに職員2名が同時に出勤できない状況は避けられました。その間は、グループホームから職員の応援を呼び、事務処理等は在宅ワークを進めて利用者支援を継続しました。この経験によって、状況がさらに悪化した場合に支援の継続ができる限界を想定し、再開の手順を考える等BCP策定に向けてのシミュレーションができたにとらえています。
- ・ 感染を避けるため、手指の洗浄と消毒、マスクの着用、こまめな換気、人との距離を取るなどの対策を続けており、新型コロナウイルス感染症の5類移行後も継続する方針です。抗原検査については、職員は週2回、神戸市から提供されているキットを使い、利用者のためには検査キットを購入して備えています。

#### ○利用者の高齢化

障害者の高齢化のスピードは想像を超えており、一人では立てないほどに弱ってきた利用者がいます。職員の知識では十分な運動を提供できないため、介護保険サービスで通所リハビリの利用も始まりました。立つ・座るなどの動作にも職員の見守りと実際の支えが必要であり、人手不足を実感する状況になっています。

## 2. 利用者

- ・ 現員は13名（定員15名）。

- ・ うち1名は、他の事業所を利用しているため週2日利用し、病気療養中の1名には在宅支援を行っているなど、状況は変わっていません。
- ・ 利用率と稼働率

	延べ利用者数	在籍利用率	平均利用者数	稼働率
令和3年度	2780名	86.6%	11.3名	75.1%
令和4年度	2787名	85.4%	11.1名	74.0%

- ・ 利用者の重度化と高齢化

障害支援区分		
	令和5年3月末	令和4年3月末
6	2名	1名
5	3名	3名
4	5名	4名
3	1名	3名
—	2名	2名

年齢（令和5年3月末）	
70代	1名
60代	2名
50代	3名
40代	1名
30代	4名
20代	2名
平均年齢45.9歳	

### 3. 職員体制

	職種	人数
常勤	管理者および生活支援員	1名
	サービス管理責任者（グループホームと兼務）	1名
	職業指導員	1名
非常勤	生活支援員	1名

### 4. 開所日・開所時間

サービス提供日	月曜から金曜 (ただし、長期休暇や休日のイベントがあります)
サービス提供時間	午前9時30分から午後4時まで (ただし、第2水曜は午後2時、第4水曜は午後1時まで)
長期休暇	夏季 8月11日～8月15日 冬季 12月29日～1月3日
開所した休日	4月29日、5月3日、5月4日、5月5日、9月23日、11月3日、11月23日、2月23日

## 5. 日課

9:00～	プログラムの確認、記録の記入、 体温と血圧の測定、作業の準備	13:00～	作業	*1
9:30～	作業	14:30～	体操	*3
11:45～	昼食、昼休み、散歩	15:00～	お茶・記録	
		15:25～	そうじ・着がえ・終わりの会	
		16:00	解散	

\*1 10:00と14:00に水分補給をします。

\*2 感染症対策として2グループに分け、昼食の時間をずらします。

\*3 夏の熱中症対策として、散歩は控えて室内で30分間体操するようになり、散歩を再開した後も体操は継続しています。

## 6. 作業内容

- ・ 自主製品の制作：手漉き紙、ビーズ小物。自主製品の販売先が増え、ビーズ小物づくりに取り組む利用者が増えました。
- ・ 下請け作業：印刷・製本・発送作業、三角くじ

## 7. 工賃支給

	4月～10月 *1	11月～3月 *1	年間 *2
平均	1,501円	4,326円	3,071円

\*1 出席率にかかわらず、支給した人数の1か月あたりの平均

\*2 他の日中支援サービスを併用している人と病气療養中の人を除いた平均

## 8. その他の活動内容

昼食

- ・ 週3回、希望者は給食会社の宅配弁当を昼食としています。
- ・ 週1回（基本的に木曜日）、調理実習を実施。
- ・ 7月～9月を除き、利用者家族の食事提供による「おたのしみランチ」（第2木曜）、「カレーの日」（第4木曜）がありました。
- ・ 週1回、配達してくれる弁当店で注文しています。他に、スーパーに弁当を買いに行く、一人分の昼食を作る、ハンバーガーを注文する等、普段と異なる食事を楽しむ日を設けました。

散歩・体操

シャロームの活動だけでは運動としては全く不足するのが明らかになりました。しかし、現状でできることとして、散歩と毎日30分間の体操を続けています。

## レクリエーション

	内容	参加者	備考
4月	まちあるき① 初代県庁館	5名	地下鉄で移動
4～5月の 休日	焼きそばづくり、ハンバーガーのテイクアウト、カラオケ、DVD鑑賞会、創作活動（書道等）等	4日間に 延べ27名	シャロームまたはグループホームで実施
11月	「粉もん」パーティ	6名	シャローム
	創作活動（書道）	7名	
1月	まちあるき② 長田神社へ初詣	9名	車いすも使う
	まちあるき③ 柳原蛭子神社の十日えびす	5名	
2月	まちあるき④ 長田神社の古式追儺式	4名	
2月の 休日	カラオケ、寿司または牛丼のテイクアウト、ホットケーキパーティ	10名	グループホーム

## 健康管理

- ・ バイタルチェック：毎朝の検温・血圧測定。
- ・ 歯科受診：歯科医院に行けない利用者に対して、月1回訪問歯科診療の場の提供。
- ・ 受診等の支援：自力で移動できない、意思疎通が難しいなど、必要な利用者に対し、通院への同行、予約の手伝い等の支援。希望者の服薬管理を支援します。
- ・ 健康診断：2月に健康ライフプラザで希望者8名が受診。他で受診した利用者からは結果の写しの提出してもらい、健康状態を把握しています。
- ・ その他：6月に利用者が検査入院しました。一人で立てなくなり、座位も保てず、傾眠傾向があったためですが、検査の結果は体力低下・筋力低下が原因で、「要するに運動不足」とのことでした。理学療法士に指導された自宅でできる運動メニューに基づき、道路での歩行や椅子をつかったスクワットや体操などを実施しています。しかし、ご本人が身体の痛み等を訴えることがあり、十分な運動の確保が困難になりました。そのため、介護保険サービスのリハビリテーションに特化したデイサービスを利用し始めました。

## 9. 地域交流

- ・ 紙すき体験教室：8月にグループホームのリビングで地域の小学生を対象に開催。
- ・ 保育実習の受入：9月に短大生の実習を受け入れました。
- ・ 長田ボランティアセンター、長田区自立支援協議会、五番町一丁目自治会の活動に参加しました。

## 10. 防災・防犯

## ・ 防災訓練

	種類	内容	参加者
5月	・ 避難計画の内容確認 ・ 情報収集	大雨による河川増水を想定した避難計画の確認。増水を予測するための河川の水位や上流の降水量チェックの練習。	8名
7月	・ 情報伝達	災害用伝言ダイヤルの練習。	12名
11月	・ 避難と誘導	兵庫県津波一斉避難訓練。南海トラフ巨大地震を想定した緊急速報メールへの対応と避難。	10名
1月	・ 屋内安全確保 ・ 避難と誘導	シェイクアウト訓練から避難訓練。南海トラフ巨大地震を想定。	10名

- ・ 火災を想定した避難訓練ができなかったため、次年度に行います。
- ・ 災害用の食品と飲料の2日分を備蓄しました。

## 11. 職員研修、職員会議

	テーマ	主催・講師	場所等	参加者
4月	福祉事業所だからこそできる権利擁護と福祉事業所ゆえに発生する権利擁護のリスク～「当たり前」を押し付けないために大切なアプローチ～	・ (株)LITALICO ・ (一社)ラフレックス代表理事・神崎寛明	動画視聴とディスカッション	4名
4月	マテリアルとデザインで変わる印刷物セミナー：読みたくなるデザインレイアウトのルール	・ (株)大塚商会 ・ (株)TART DESIGN OFFICE 代表・伊達千代	動画視聴	3名
5月	販促効果を上げるSNS&印刷物の融合セミナー：Officeを使った販促物作成・Microsoft Officeでもここまで出来る	・ (株)大塚商会 ・ (株)カムロックシステムズマーケティング・アドバイザー 田上真喜子	動画視聴	3名
5月	なぜ理念経営をする福祉事業所は業績が良いのか？	・ (株)LITALICO ・ (株)クランプ 羽田孝	動画視聴と伝達講習	3名
5月	研修プラン策定で知っておくべき3つのこと	(株)Lean on Me 代表・野中翔太	動画視聴と伝達講習	3名
12月	実際にあった虐待事案から学ぶ虐待防止	・ (株)Lean on Me ・ (福)横浜やまびこの里相談支援部長・志賀利一	動画視聴と報告書	3名
3月	ストップ虐待！あなたの〇〇で止められる！3つの打ち手！	(特非)サポートひろがり 代表・山田由美子	動画視聴と報告書	1名
3月	当事者家族の声を聞く～根底にあるのは人権擁護！本人中心～	・ 大阪市育成会「障害者虐待防止・権利擁護研修」 ・ (一社)全国手をつなぐ育成会連合副会長・小島幸子	動画視聴と報告書	2名



3月	「体調不良です」への対応～仮説立てと利用者本人との進め方	・(株)LITALICO ・(一社)ルンアルン 池田真砂子	動画視聴と報告書	2名
3月	障害者アートを活用した商品開発	・兵庫県ユニバーサル推進課 ・GoodJob!CenterKASHIBA 企画営業ディレクター・安部剛	動画視聴と報告書	2名
3月	福祉事業所における災害時BCP研修	・兵庫県 ・(株)インサイト代表・北野喬士	動画視聴	1名

- ・ 3月にサービス管理責任者更新研修を受けました。

## 1.2. 設備・備品

- ・平成17年3月登録の車輛の車検を受けました。
- ・緊急用として車いすを購入しました。
- ・令和4年度NHK歳末たすけあい募金の2次配分をいただきました。  
経年劣化のために故障した紙漉きで使う攪拌機を購入できることになりました。

## 1.3. その他

- ・新しい会計ソフトでの会計処理が始まりました。
- ・会計ソフトと同じメーカーの給与計算ソフトの導入を決め、設定を始めました。

## 共同生活援助事業所・グループホーム・シャロームの活動

### 1. 概要

#### ○グループホームと短期入所の稼働率の向上

- ・グループホームでは、開設当初は毎週金曜夕方に帰省していた入居者全員が、土曜の朝や日曜の朝までホームにいるようになりました。中には、月2回は帰省しないでホームにいる生活リズムで落ち着いた入居者もいて、稼働率は上がってきました。

	開所日数に対する利用率	稼働率
2021年8月～2022年3月	93.7%	68.2%
2022年4月～2022年8月	90.5%	75.7%
2022年9月～2023年3月	91.7%	81.8%
2022年4月～2023年3月	91.2%	79.2%

- ・ 短期入所については、延べ26名が利用し、全員シャロームの利用者です。グループホームの入居者の1名が、安全のため常に見守りが必要になったため、職員1名体制では短期入所によく知らない人を受け入れる余裕がなく、積極的に広報していないのが現状です。
- ・ 金曜の夕方に1名、開所する土曜・日曜のために1名の職員を採用しました。

#### ○新型コロナウイルス感染症対策

- ・ 8月にグループホームの常勤職員1名が感染し、非常勤職員1名が自宅待機になったため、就Bから職員が応援に入りました。
- ・ 同月、入居者1名がのどの痛みを訴えたことから、可能な入居者には帰宅してもらい、グループホーム内でゾーン分けを行いました。感染拡大の時期であり、医療機関にはかかれず、抗原検査は陰性ではあるものの、新型コロナウイルス感染症のような症状は治まりませんでした。しかし他に症状が出る職員・入居者がいなかったため、不安は残りながらも1週間で通常の状態に戻しました。この経験から、感染を広げないための環境整備の難しさを実感し、作成したマニュアルを読むだけでなく、平常時にケアの動作を練習することの必要性を学びました。

## 2. 入居者数

- ・ 共同生活援助：現員5名（定員5名）
- ・ 障害支援区分：11月に障害支援3の1名が5になりました。
- ・ 短期入所：定員1名

障害支援区分 (2023年3月31日)	
6	0名
5	2名
4	2名
3	1名

## 3. 職員体制

	職種	人数
常勤	管理者および生活支援員	1名
非常勤	サービス管理責任者（就Bと兼務）	1名
	世話人	7名
	生活支援員	1名

## 4. 開所日・開所時間

- ・ 開設した2021年8月は、月曜16時から金曜9時までの開所でした。
- ・ 2022年1月からは月曜16時から土曜9時まで開所。
- ・ 2022年9月からは隔週で土曜・日曜も開所。利用しているのは2名です。

## 5. 防災・防犯

## ・ 防災訓練

	種類	内容	参加者数
5月	・避難計画の内容確認	大雨による河川増水を想定した避難経路の確認。	入居者5名 職員6名
6月	・情報伝達	災害用伝言ダイヤルの練習。	入居者5名 職員4名・家族5名
	・防災リュックの準備	・職員用の防災リュックを用意し、職員で内容を点検・確認した。 ・入居者と家族に、警報が出た際の避難経路等と防災リュックに必要な物を説明し、各家庭で用意してもらった。後日、入居者一人一人と職員が内容を点検・確認した。	入居者5名 職員7名・家族6名

## ・ 消防機器の点検

7月：消防機器の点検（機器点検）。

1月：消防機器の点検（機器点検と総合点検）。

## ・ 防火管理者と消防計画

11月に防火管理者の交代と同時に消防計画を策定しました。

## ・ 備蓄等

・ 災害に備えて備蓄用の飲食料品の購入。

・ 非常用として車いすの購入。

・ 入居者は個別性が高いため、各家庭で作った防災リュックを、それぞれの自室に設置しました。

## 6. 職員研修・職員会議

	テーマ	主催・講師	場所等	受講者数
5月	いきいきとしたチーム作りに役立つファシリテーションを学ぼう	兵庫県社会福祉協議会	兵庫県福祉人材研修センター	1名
6月	福祉事業所だからこそできる権利擁護と福祉事業所ゆえに発生する権利擁護のリスク～「当たり前」を押し付けないために大切なアプローチ～	・(株)Lean on Me ・(一社)ラフレックス代表理事・神崎寛明	動画視聴とレポート	1名
10月	障害者虐待防止法・従事者向け研修会動画	松戸市障害福祉課	動画視聴とレポート	1名

1月	実際にあった虐待事案から学ぶ虐待防止	・(株)Lean on Me ・(福)横浜やまびこの里相談支援部長・志賀利一	動画視聴とレポート	7名
3月	「9つの財務指標」を活用した社会福祉法人の経営強化	兵庫県福祉部総務課	尼崎市総合文化センター	1名

## 7. 健康管理

- ・ バイタルチェック：毎朝、検温を行っています。
- ・ 服薬管理
- ・ 入居者1名が6月に約2週間入院した原因は運動不足と診断されました。退院後は就Bと協同で、機能維持のために理学療法士に指導された運動を続けていますが、効果が見られず、週2回、介護保険サービスによるリハビリテーションを受けています。

## 8. 設備・備品等

- ・ 歩行がおぼつかなくなった入居者が、トイレ入口に垂直手すり、ベッドの柵、歩行器をレンタルしました。
- ・ 2階ベランダに通じる屋外階段に人感センサーを付けました。

## 9. 地域交流

- ・ 長田神社地域まちづくり協議会に参加。

## 8. その他

- ・ 家族会を7月に開催しました。警報が出た時の対応と防災リュックについて説明し、グループホームが開所して1年の報告をしました。